

【ローマ人への手紙14章】

「神の国は飲み食いのことではなく、
義と平和と聖霊による喜びだからです。」
(ローマ14:17)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2011.12.4 No.660

今年のみ言葉 歴代誌Ⅱ 20:22

「彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、
主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、
セイル山の人々を襲わせたので、
彼らは打ち負かされた。」



שִׁלּוֹם (シロアム)

主の十字架クリスチャンセンター (TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>

先日のライブでは、やすらぎの歌と共にクリスマス・ソング「きよしこの夜」と「諸人こぞりて」も歌いました。(聖書には12月25日に救い主イエス・キリストがお生まれになったという記事はありませんが) 救い主のお誕生は何よりも素晴らしいものです。「諸人」の5番には「平和の君なる～」とあるように、救い主イエス・キリストはこの世に平和の君としてこられたのです。今日選んだ御言葉に「義と平和と聖霊による喜び」とありますが、この「平和」は「シャローム」です。イスラエルではこの言葉を挨拶としても使い、非常に多くの意味を含んでいますが、**神との平和、和解**であり、「シャローム」と挨拶することによって平安が相手にあるように願います。台湾でもクリスチャンが平安(ピンアン)と挨拶します。

もうすぐイギリス・ドイツ・チェコにチームが遣わされます。第1次大戦のイギリス軍とドイツ軍の戦いがフランスの岩だらけの荒野でなされていた時の事です。溝を掘りその中にお互いが隠れて撃ち合いをしていた時のことですが、クリスマス夜の夜もふけた頃、見張りをしていたイギリス兵がドイツ兵の塹壕の中から「きよしこの夜」を歌っているのを聞いて、自分も歌いだし、その声に皆が武器を置いて、有刺鉄線をぐり抜けて飛び出して広場に出てきて大合唱が始まったそうです。「シュティレナハト・・・ハイリゲナハト・・・」「サイレントナイト・・・ホーリナイト・・・」戦争の真っ最中、イギリスでもないドイツでもない真の王なる神様に敵味方声を合わせてほめ歌を歌うという奇跡がおきました！！神は救い主であり、敵味方の中垣を取り除く平和の君なるお方です。シャロームの神様の御心に聞き従って歩む時、私たちは聖霊による喜びを今まででも体験してきました！更にこれからも、喜びの声を上げ、賛美の声を上げ、感謝の戦士として導かれていることはなんと素晴らしいことではありませんか！

当時のユダヤ人は戒めに忠実でしたから、何を食べてはならない、こうして食べなさいと厳しく戒律があり、また「日」に関しても様々な規定がありましたが、神様はそのようなことは神の国の本質的な問題ではなく、その事で裁き合ってはならず、信仰の弱い人を受け入れ、何をしても主の為に信仰を持って成すべきであると言っています。リビングバイブルには次のように分かりやすく書かれてあります。「私たちクリスチャンにとって大切なのは、何を食べるか、何を飲むかではなく、正しさと平安と聖霊様からくる喜びとに満ち溢れているかどうかだからです。このようにキリスト様に仕えてこそ、神様に喜ばれ、また人々にも喜ばれるのです。こうして教会内の調和を目指し、互いに助け合って成長するように努めましょう。」

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。